

令和3年度（補正予算）

関係人口創出・拡大のための対流促進事業 （中間支援組織の提案型モデル事業）

事業の実施結果 （概要）

団体名	高野竹工株式会社
事業名	社寺×伝統工芸によるアップサイクル製品を通じたブロックチェーンによる文化交流関係人口・アニュラス（円環）コミュニティの創出

- 社寺の庭園の伐採木や建造物の廃材を、複数の産地の伝統工芸の職人とクリエイターによりアップサイクルし販売するとともに、素材の由来となる社寺や製作者の証明をNFTにして付与した。
- 利益が守り手（社寺）・作り手（職人等）に還元される、地域の文化保全の仕組み（名称：アニュラス）を創り、素材の由来や職人・クリエイターとの社交を楽しむ交流会の開催、参加者へのNFTを活用したリワード（特典）により、地域の文化保全の「支え手」による新しいコミュニティを創出した。

主な活動内容

1. アップサイクル製品×NFTによる文化保全の仕組みづくり

- 社寺古材を工芸技術によりアップサイクルした製品の唯一性と、製品の由来や製造履歴等を紐づけるNFT活用について検討。
- 実際にNFT付きアップサイクル製品を販売し、由来となる社寺への利益還元を預かった。

2. アニュラス交流会の開催 注：交流会にはNFT付き製品購入者以外も参加可

- 循環型消費に共感する人を社寺や伝統工芸のといった地域の文化保全の“支え手（関係人口）”として巻き込むための「アニュラス交流会」を燕市・長岡京市・松本市・東京都にて開催し、リアル・オンライン双方での交流プログラムを販売・提供。会費の一部を由来となる社寺への利益還元として預かった。
- アップサイクル製品を用い、職人が給仕する喫茶会、素材の由来を探求する鼎談（ていだん）、展示・販売、オンライン聴講等、複数プログラムで趣向を凝らしたほか、関心を示した企業等の参画も仰ぎ、法人の関係人口も創出。



アニュラス交流会（燕市・玉川堂）
* オンライン聴講もチケット販売



アニュラス交流会（長岡京市・竹生園）
* 地元商社ともコラボ企画



アニュラス交流会（松本市・全久院）
* オンライン聴講もチケット販売



アニュラス交流会（東京都・乃村工藝社）
* 企業・NFTマーケットプレイスとの交流

主な成果

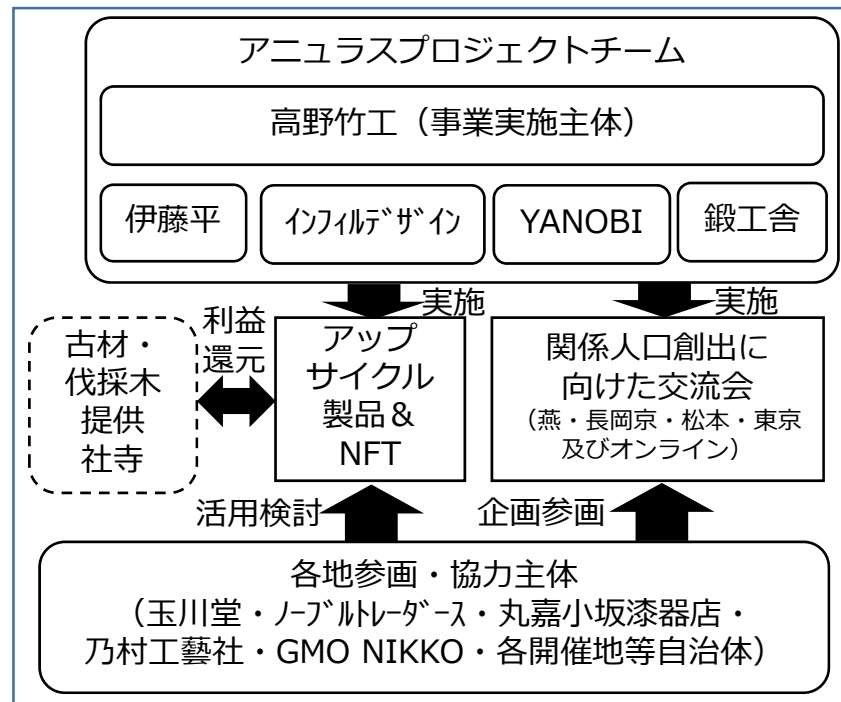
1. 参加者や地域の声

- NFT付き製品購入者からは、NFTの添付により、真贋証明としてより付加価値が高まるほか、単にモノとして所有するのではなく、ストーリーや背景の理解が得られるとの声が多かった。
- 交流会には首都圏からや甲信越・近畿間の移動等による参加もあり、参加者からは実際に製品や職人に触れる機会の提供、背景価値に関する知識習得、工芸ならではの設え・もてなしへの満足の声が多かった。
- 目標とした関係人口80人を上回る104人の交流会への参加。

2. 事業を通じて得られた気づきや知見

- 社寺や伝統工芸といった地域の文化の魅力の源泉とも言えるストーリーを見える化・訴求する手法としてNFTが有用であることが確認されたほか、リワード（特典）により催しや購入等の“後”も、支え手（関係人口）とのつながりを継続することが重要であるとの知見が多かった。（量より質のコミュニティ）
- 交流会の記録自体にNFTを発行、ノベルティの提供を行うことで、コミュニティへの参加を促すことができた。

事業実施体制・関係機関



* アップサイクル製品の製造は補助事業とは別にアニュラスプロジェクトチームが連携実施

団体名	役割
高野竹工株式会社	事業全体の進捗管理
株式会社伊藤平	社寺連絡調整・交流会運営支援
インフィルデザイン株式会社	NFT活用の仕組構築・発行支援
鍛工舎	交流会運営支援
YANOBI	広報デザイン・交流会運営支援
株式会社玉川堂	燕交流会企画参画・協力
ノブトレダース株式会社	長岡京交流会企画参画・協力
丸嘉小坂漆器店	松本交流会企画参画・協力
株式会社乃村工藝社	東京交流会企画参画・協力
GMO NIKKO株式会社	東京交流会企画参画・協力
長岡京市・燕市・松本市・塩尻市等地方自治体	各交流会の広報協力（一部後援名義）、地元マスコミ連携支援

デジタル分野に関する取組状況

- 社寺の修繕時に生じた古材を活用し、複数素材・産地の伝統工芸の職人・クリエイターが共同開発した製品（野点珈琲茶箱、敷板、盆等）に、製品の唯一性と由来・ストーリーを確認できるNFTを添付。一次販売の利益の一部を預かり社寺へと還元するとともに、NFTマーケットプレイスの活用を比較検討しつつ二次流通以降の社寺・職人等への利益還元を設定した。
- 交流会そのものの記録についても「現代版茶会記」としてNFTを発行、コト×NFTの活用を検討・実践した。NFTの確認できるQRコードの印刷されたノベルティを交流会参加者には配布し、コミュニティ活動への貢献意欲を喚起する仕掛けとした。
- 交流会の企画・運営に関心を示した各地の法人を巻き込み、工芸×関係人口×NFTの活用を検討する交流会も開催、各法人の事業活動を通じた関係人口＝コミュニティの可能性を広げた。

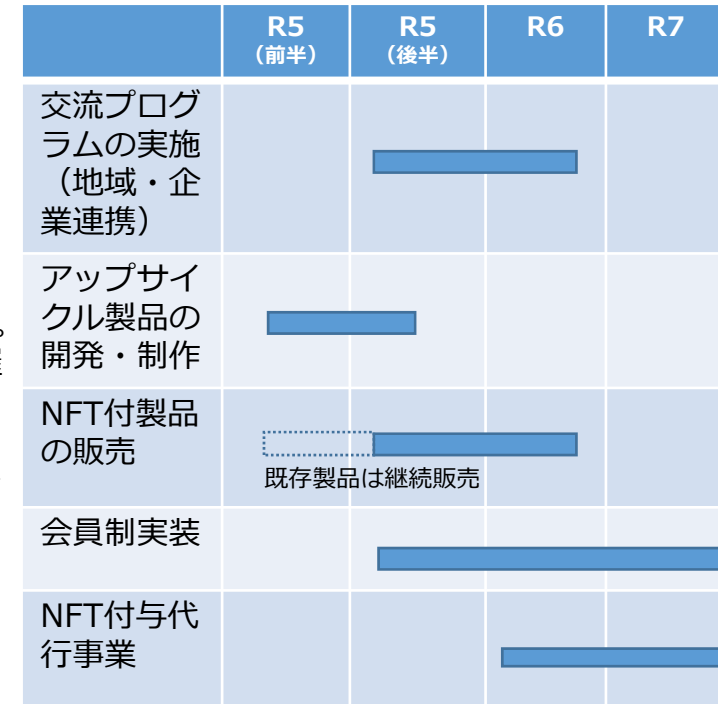


実際に発行した茶会記NFTと参加者に配布したNFTナンバー入り工芸ノベルティ（スパチュラ）

次年度以降の事業展開

- 令和5年度中に、アニュラスプロジェクトチーム構成員の所在地域（京都府丹後地域）にて、社寺と地域の工芸（ちりめん等）と連携した交流プログラムを実施予定。
- 本事業における交流会（各地域・オンライン）へ参加した方から、社寺と地域コミュニティとの連携可能性について打診があり、アップサイクル製品の製造及び交流プログラムの実施について相談中。
- 交流会参加企業等から、NFTを活用した企画や文化保全に向けたコミュニティ創出のためのリワード（特典）企画等のアイデアが寄せられており、一つ一つ形にすることで工芸・地域・企業の連携を通じた関係人口の創出を図る。工芸の魅力や由来や素材のストーリーを趣向を凝らして伝える交流会を開催することにより、アニュラスプロジェクトの文化保全に向けたNFT活用や利益還元の仕事について参加者の理解を深めた結果、上記のような別地域での実施オファーや、製品販売やイベント実施にとどまらない事業内容での企業等との協業可能性が開かれており、今後も継続して交流会を開催する。
- コミュニティの会費制（NFTを絡めた特典あり）の実装と、NFT付与の代行事業を、今年度実施したNFT付き製品の販売・有償交流会開催事業に加えて展開する。

■ 事業スケジュールのイメージ



【単位：千円】

	費目	R5	R6	R7
支出	支出計	4,455	4,660	4,975
	アニュラス運用費	3,950	3,950	3,950
	交流プログラム提供	400	560	800
	文化保全等への還元	105	150	225
収入	収入計	2,820	4,020	5,640
	アップサイクル製品の流通手数料	1,820	2,620	3,640
	会費(作り手)	200	300	600
	会費(一般・企業)	800	1,100	1,400

自立・自走化にあたっての課題

- NFT市場がまだ創成期でもあり、NFTのウォレットを持つ人口が少ない状況であるため、NFTマーケットプレイスでのNFT付き製品の出品・流通を通じた事業の自立化は、時間がかかることが想定される。
- そのため、リアル・オンライン双方での交流会開催を軸にしながら、企業会員や古材・伐採木を活用したい作り手側の会員増加等、多面的な展開により自走化を図る。特に、本事業を通じて得られた「コト×NFT」の試みによる知見、チケットや限定参加権へのNFT付与等の可能性について試行を続ける。